臺灣日日新報

第二版(明治三十一年五月九日第三種郵便物認可) 昭和十八年十二月二日(木曜日) 臺灣日日新報 第一万五千七百七十號

第四次ギルバート諸島沖航空戰

空母など四隻轟沈破

又復我海鷲の大戰果

【東京發至急報】大本營發表(十二月一日十五時)

帝國海軍航空部隊は十一月二十九日薄暮ギルバート諸島東方海面において敵機動部隊を攻撃し左の戰果を得たり

撃沈 航空母艦二隻(內一隻轟沈)艦種未詳一隻

撃破 大型巡洋艦一隻(大破炎上)

我方の損害 未歸還六機

註 本航空戰を第四次ギルバート諸島沖航空戰と呼稱す

ギ諸島海域綜合戰果

轟撃沈破廿二隻

敵機撃墜百二十五數ふ

【東京發】ギルバート諸島方面において去月十九日以降第四次ギルバート諸島沖航空戰に至るまでの間に帝國海軍航空部隊並びに潜水艦の收めた綜合戰果左の如し(地上部隊に依る對空戰果を含む)

一、敵に與へた損害

◇轟沈六隻 航空母艦四隻、巡洋艦一隻、驅逐艦一隻

◇撃沈六隻 航空母艦三隻、巡洋艦二隻、艦種未詳一隻

◇撃破十隻 航空母艦四隻、戰艦(若くは巡洋艦)一隻、巡洋艦(若くは戰艦)一隻、大型巡洋艦(大破炎上)二隻、輸送船二隻

◇撃墜 百二十五機(內不確實二十五機)

二、我方の損害 自爆未歸還百二十七機

戰史空前の高率損害

執拗な敵の空母中心作戰

暮闇衝いて肉薄强襲

タラワ、マキン島に守備部隊死鬪續く

來襲十六機を撃墜

ウエワク方面

米上陸戰鬪に苦戰

米海軍司令官更迭か

東久邇宮盛厚王殿下 陸軍少佐に御進級

【東京電】陸軍大尉東久邇宮盛厚王殿下には今般少佐に御進級遊ばされたる旨一日陸軍省より發表された

任陸軍少佐 陸軍大尉 盛厚王

△陸軍省發表(十二月一日午後三時)

社說

國語普及は政治の領域

吉田大將

近藤大將

軍事參議官吉田大將

支那方面艦隊司令長官 近藤信竹大將

舞鎭司令長官 大川內中將

海軍省公表

海軍省公表(一日十五時三十分)

一、本日左の通り親補せられたり

補軍事參議官 海軍大將 吉田善吾

補支那方面艦隊司令長官 同 近藤信竹

二、本日附左の通り補職發令せられたり

補舞鶴鎭守府司令長官 海軍中將 大川內傳七

補横須賀海軍工廠長 海軍中將 德永榮

四提督の略歷

吉田善吾大將 / 近藤信竹大將 / 大川內傳七中將 / 德永榮中將

機構決戰化と共に 頭の切替へが肝要

齋藤長官 官吏の奮起を要望

國動、林務兩課新設

刑事課を復活 地方行政機構を改革

州行政機構

總務部 / 產業部 / 警察部

鑛工局開局式

農商局開局式

運通省異動

交通局異動

日滿華共同宣言は東亞樞軸建設の礎

汪國府主席談話を發表

完全占領目睫に迫る

常德の敵軍食糧彈藥缺乏

增援敵軍を包圍猛攻

戎克七十隻を鹵獲

常德の最後を 重慶側も認む

廣九鐵道東側肅淸

共匪の據點横崗墟覆滅

大東亞省人事異動

敵增援部隊を殲滅

陸の精銳トロキナに勇戰

米紙暴論吐く

けふの官報

重なる御慶びの 三笠宮 同妃兩殿下

三笠宮妃殿下に御目出度き御慶徴

御五ケ月の御内着帶を了せらる

【東京電話】三笠宮妃百合子殿下におかせられては二日御目出度く滿二十八歳の御誕辰を迎へさせられ…[illegible]

擧島戰力增强へ……三年目も勝拔かう

齋藤皇奉本部長 島民の奮起要望

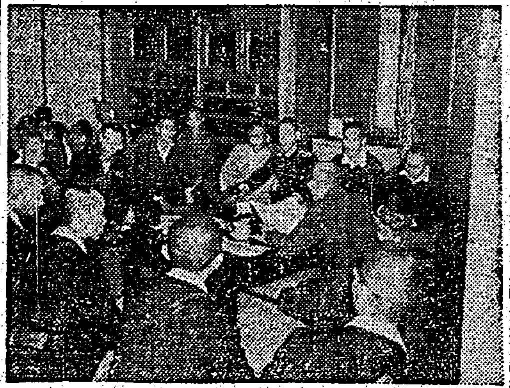
ラジオ常會で

大東亞戰爭第二周年の記念日を迎へ、との一年間を如何に我我は戰ひ拔いて來たか、そして又來る新しい三年目を如何に戰ひ拔かねばならないか…[illegible]

前線の 將兵に大いに報いて…[illegible]

忠實に …[illegible]

戰力を 今日は昨日より明日は今日より以上に…[illegible]



貯蓄に …[illegible]

大東亞 一家に…[illegible]

全島保姆錬成會

獅子頭で開催

[illegible]

ジャワ留學生も隣組

お互に勝ち拔きませう

[illegible]

新竹

[illegible]

滾る赤誠志願兵へ

臺北州下の受付第一日 志願者總計三萬名

[illegible]

臺灣醫師會で健民講習

[illegible]

獻金

[illegible]

宜蘭

[illegible]

高雄

[illegible]

陸海軍志願兵へ…若人を激勵

山本事務總長

"躊躇逡巡許されず 蹶起せよ青年諸君"

今こそ …[illegible]

青年は …[illegible]

それ丈 …[illegible]

本島青年諸君 …[illegible]

澎湖令旨傳達及國旗授與式

[illegible]

ラジオ

第一放送 …[illegible]

第二放送 …[illegible]

銅像の代替に

工藝セメント像

銅像を工藝セメント像に複寫して供出しませう

胸像、立像 殿歿者像 頌德像 製作、鑄造

[illegible]

第八期決算公告 [illegible]

南日本化學工業株式會社

第四回決算公告 [illegible]

臺灣燃料機械株式會社

第二期決算公告 [illegible]

南方セメント工業株式會社

第參期決算公告 [illegible]

臺灣鋼材販賣統制[illegible]

臺日案内 [illegible]

今日の映畫

大世界 台劇 新世界 芳乃館 芳明館 國際劇場 萬華劇場 太平館 第二世界 中央劇場 基隆世界 旭劇場 大和劇場 羅東座 宜蘭座 昇平座

臺北州合同興業會社

新竹の映畫 新竹劇場 有樂館 基隆劇場

[illegible]

女子事務員及交換手募集
希望者ハ履歷書持參來社ノコト
臺灣土地建物株式會社

漬物經驗者募集
漬物製造ニ經驗アル者青年又ハ壯年若干名採用ス希望者ハ履歷書當社宛至急送付セラレタシ面會期日ハ追テ通知ス
桑田產業株式會社

塗料取扱實績調査ニ關スル廣告
[illegible]
塗料販賣業者各位
古河電氣工業株式會社内
塗料配給機構整備委員會

父高松辰四郎儀[illegible]
[illegible]
宮地政一
カネヨ
中矢佐吉
白曼忠次郎
尾原房生

會葬御禮
波多野十太郎
嘉一

會葬御禮
謝謝
兩家

母呂黄氏算儀豫テ病氣療養中ノ處十二月一日午前九時二十分享壽九十五齢ヲ以テ永眠仕候間茲ニ生前ノ御厚誼ヲ拜謝シ此段謹告候也
追而告別式ハ十二月三日午前十時自宅ニ於テ相營可申候 尚時節柄御供物ノ儀ハ勝手御斷申上候
昭和十八年十二月二日
合資會社 勝昌商店
呂 呂 邱 許 徐 重 [illegible]

父石井隆雄儀豫テ病氣療養中ノ處養生不相叶去ル十一月二十五日永眠致候間生前ノ御厚誼ヲ拜謝シ此段辱知諸彦ニ謹告仕候
昭和十八年十二月一日
[illegible]

今般弊社社長石井隆雄殿病氣療養中ノ處去ル十一月二十五日逝去被致候間茲ニ生前ノ御厚誼ヲ深謝シ此段謹告仕候
昭和十八年十二月二日
合資會社 石井鐵工所
金星醬油合資會社

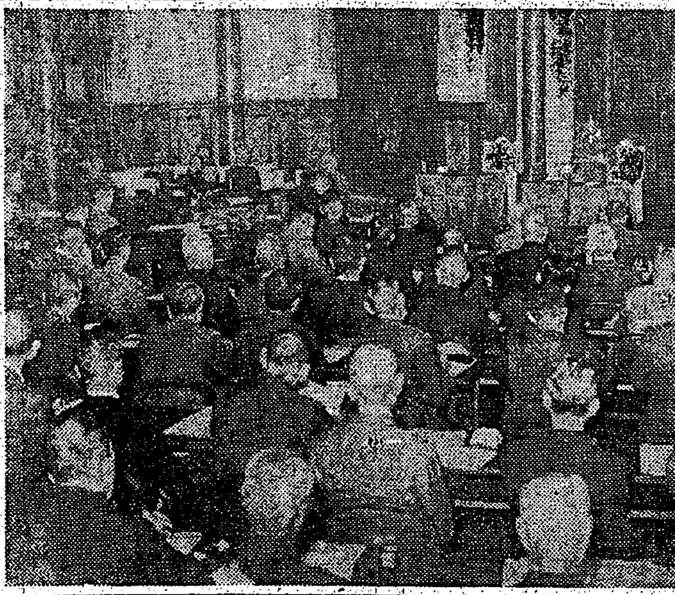
當副分園長故石井隆雄殿ハ病氣療養中の處十一月二十五日死去被致候條此段及謹告候
昭和十八年十二月一日
[illegible]
福永耕祥

夕刊 臺灣日日新報 十二月二日

必勝臺灣一家の總常會

健民健兵へ強力推進

皇奉中央參與奉公委員會



皇奉中央本部參與奉公委員會

率先示範天業翼賛 誓つて聖恩に應ふ

總裁告辭

企圖

意見

諮問事項 徵兵制度實施決定に

沈着

參與、委員答申概要

感謝電報文

獨潜水艦活躍

運輸行政を一元化

交通局機構擴充の意義

强化

發揮

九課

重要

反樞軸側デマ流布

葡領チモール島に關し

葡首相の不信

期待されぬ兩會談

日葡關係重視の必要なし

赤軍コロステン撤收

反樞軸カイロ會談

徵兵制度の達成に 内臺一如突進せよ

齋藤總務長官講演

理想

決戰

銃後の大敵思想謀略

六百五十萬總てが思想戰士

近藤臺灣軍參謀長口演

新道德

擧國の

戰爭の

思想戰

航空兵力を增強せよ

完勝の要素は航空戰力にあり

菊池海軍大佐口演

反撃

海戰

全局

航空

增税案議會提出に閣議決定

人事

決戰へ臺灣一家體當り

島民皆兵へ一路驀進

和やかな裡に漲る闘魂

國語・日常用語化へ

「バナシの會」を組織せよ

安藤參與の提唱

午餐會を催す

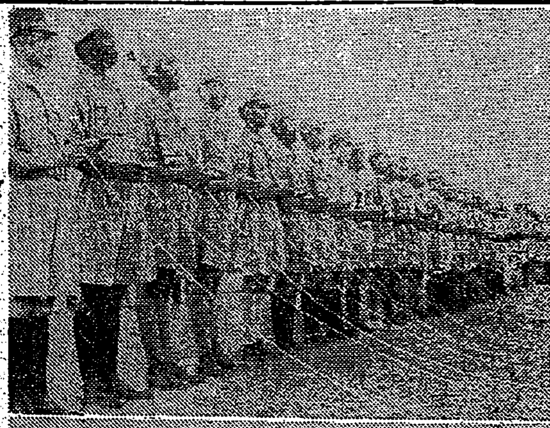
神威の下必勝期す

國威宣揚祈願祭

けふから八日まで 全島各神社で齋行

責務を痛感 須田農商局長

基隆港務局 丸岡局長着任



マライの治安を擔ふ原住民警察官

交通局異動

心して織れ丈夫の服

職場に燃ゆる乙女の眞心

陸軍製絨廠にあがる赤誠譜

一般國民學校への共學希望者へ

新竹市志願者

勝ち拔くために

年末年始はこの心構へで

第一日既に三千名

基隆市燃ゆる志願熱

食糧部の開部式

奉公運動推進の具體策協議

廢止國土局の一部事務財務局へ

"任事第一"で 稻田港務局長

青少年の指導强化

獻金

防空必勝の備へ座談會 (六)

治安對策は必勝信念

必勝信念は平素の訓練

森田情報課長

鈴木課長

高宮少佐

情報課長

瀧野課長

加藤事務官

皇軍將兵慰問金 (三十九)

五千百十二圓五錢
千圓
五千圓 日本アルミニウム株式會社
千四百六十圓
千百八十八圓
千圓
三百圓
二百圓
百圓
百圓
百圓
百圓
百圓

今夜の番組

明朗の番組

小計金 一萬六千四百七十五圓十七錢
累計金 廿八萬八千三百五十一圓卅錢

倭寇水軍 (21)

村松梢風 作
中一彌 畫

三島水軍 (七)